

有ナルベシ○中略

林又云コトアリ、曰年少ノ時、王子村飛鳥山ノ手前ニ、西ケ原ト云所アリ、ソノ處ノ豪農斯花ヲ多ク植テ、牡丹屋敷ト稱シ、春毎ノ見物群到セリ、王侯貴人ハ其宅ヲ借切ニシテ終日ノ宴席トシ、各家ノ紋幕ヲ張テ、雜人ノ入ルヲ許サ、ル目モ有リキ、然ルヲ何ツノ間ニカ廢シテ、今ハ其處ヲ知ル人サヘ無シ、彼モ一時ナリ、此モ一時ナリトヤ云ベキ、流居士曰、カ、ル好事サヘモ盛衰互ニアル、況ンヤ朱家權門ノ榮枯老目ノ歷ル所ナリ、

牡丹雜載

〔玉海〕承安二年四月廿日戊午、此日法性寺所被植置之牡丹、堀進院○後河白依有御尋也、以隨身重武令付定能朝臣、

〔攝津名所圖會七原郡〕熊内牡丹くわちのほたん 熊内村醫生の家にあり、初は高丈餘の牡丹ありし由、今枯てなし、舊記に載て名世に高ければ、こゝに記す、

〔玄同放言二〕山牡丹山橘 附出

山牡丹ハ苑圃中に植うるものとおなじからず、我邦にはこれなしといふものあり、玄かれども煙霞綺談卷四云、遠州秋葉山の麓、いぬの川の上なる京丸といふ小村の片邊り、嶮岨なる山の半腹に大木二本あり、その一本は遠くより見る所凡四圍許、又一本は二圍もあらんかし、初夏に花開を見れば、その色白く徑尺許りに見ゆる也、これ牡丹なりといへり、ちかき比その村なる人に問けるに、これまぎれもなき牡丹也といへりと云るせり、鈴木素行神農本經解故卷八云、本邦牡丹無山生者、惟遠江州山中有之云、未詳といひしは、彼京丸なる山牡丹を仄に傳へ聞きたるなるべし、按ずるに謝肇淛云、五雜俎余在嘉興吳江、所見牡丹迺有丈餘者、開花至三五百朵、北方未嘗有也、か、れば唐山にも牡丹に巨大なるもの罕にはありと見えたり、我遠江なる山牡丹も、そら言にはあらぬなるべし、